

消火訓練 屋内消火栓編（2人操作）

放水により初期消火を行う訓練です。
消火器で消火不能な火災に有効です。
2人で操作する消火栓の使用方法を確
認します。

事前準備

- 屋内消火栓ボックス内にホース、ノズルが適切に収納されているか確認し、火点（消火目標）を設定します。また、火点となる場所にホースが届くか事前に確認をしておきます。
- ホースが折り畳んで収納されている消火栓は必ず2人で使用するため、放水役（Aさん）とバルブ操作役（Bさん）に分かれます。

訓練手順

- 火災発生後、使用する屋内消火栓を選定し2人で消火栓ボックスまで向かいます。
バルブ操作役のBさんが起動ボタンを押し表示灯の点滅を確認しボックスを開きます。Aさんは開いたボックスからホースとノズルを取り出し火元へ向かってホースを延長します。Aさんはホース延長中に「放水はじめ」とBさんに合図をします。このとき、合図が早いとホースを延長する前に水が出てしまいますので注意します。Bさんは「放水はじめ」の合図を受けてバルブを全開にします。
Aさんはノズルをしっかりと抱え火元に向かい放水します。Bさんはバルブを開けた後ホースのねじれ等を直しAさんの補助に向かいます。

ポイント

- ◆ 必ず起動ボタンを押してから操作します。起動ボタンを押さないとポンプ起動せず水が出ません。起動ボタンを押しポンプが起動した場合表示灯が点滅します。また、同時に自動火災報知設備も起動しベル等が鳴動します。
- ◆ Bさんは必ず「放水はじめ」合図を受けてからバルブを開放します。合図前にバルブを開けると、ホース内に水が充満し取り出せなくなったり、有効にホースが伸ばせず事故等につながるおそれがあります。
- ◆ 1号消火栓のボックスには15mのホースが2本入っています。火災時に有効な放水ができるよう各消火栓の警戒範囲（放水が届く範囲）をあらかじめ確認しておきましょう。また、消火栓の放水可能時間はおおむね20分です。

比企広域消防本部

消火訓練 屋内消火栓編（１人操作）

放水により初期消火を行う訓練です。
消火器では消火不能な火災に有効です。
1人で操作できる消火栓の使用方法を確認します。
【易操作性1号消火栓・2号消火栓など】

事前準備

- 屋内消火栓ボックス内にホース、ノズルが適切に収納されているか確認し、火点（消火目標）を設定します。また、火点となる場所にホースが届くか事前に確認をしておきます。
- ホースが輪になって収納されている消火栓は1人で使用できます。ボックスには、1人で操作できる旨のシールが貼ってあります。

訓練手順

- 火災発生後、使用する屋内消火栓を選定し消火栓ボックスまで向かいます。
ボックスの扉を開きノズルを取り出しバルブを開きます。火元へ向かってホースを延長します。
放水の準備ができたならノズル先端を回し放水します。

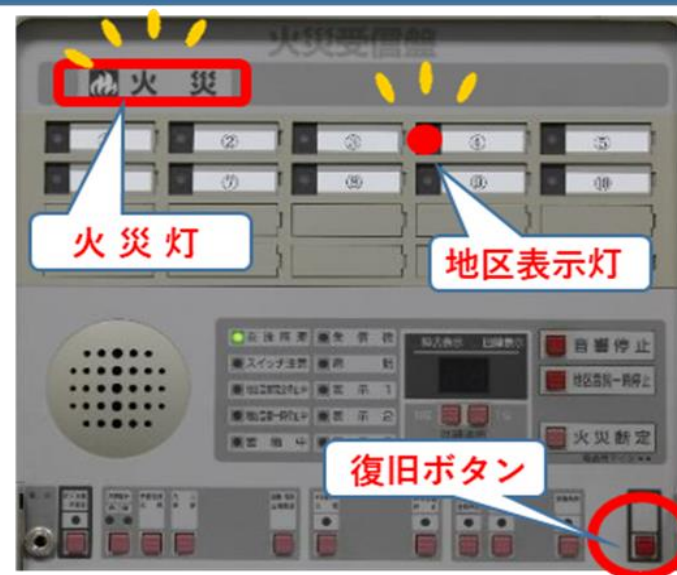
ポイント

- ◆ 1人操作の消火栓はバルブを開くことにより消火栓ポンプが起動します。消火栓ポンプ起動中は表示灯が点滅します。
機種により起動方法が異なる場合があります。必ず確認をしておきましょう。（ノズルを取り外したり、ホース延長操作によりポンプが起動するタイプもあります。）
- ◆ 易操作性1号消火栓のボックスには、1人でも伸ばすことのできる30mのホースが入っています。ホースは収納されたままでも放水が可能です。火災時に有効な放水ができるよう消火栓の警戒範囲（放水が届く範囲）をあらかじめ確認しておきましょう。また、消火栓の放水可能時間はおおむね20分です。
- ◆ ノズルの先端を回すことで放水ができます。ノズルの先端がコック式となっているものもあります。

設備の復旧方法 屋内消火栓



屋内消火栓の起動ボタン
(発信機) を元に戻す



復旧ボタンを押し、**火災灯**と**地区表示灯**が消え、赤く点灯や点滅してない状態になったら正常



ポンプ室にて屋内消火栓のポンプを停止する



設備の復旧方法 屋内消火栓編

正しい復旧方法を理解し、訓練で使用した屋内消火栓を常に使用できる状態に維持しましょう。

操作手順

□ 屋内消火栓を使用後、元の状態に戻すため次の操作を行います。

- ①屋内消火栓ボックス内のバルブを閉め、放水を止めます。
- ②発信機の起動ボタンを戻します。戻し方は機種によって違うので、確認しておきましょう。
- ③自動火災報知設備の受信機において、復旧ボタンを押し、火災灯と地区表示灯が消え、赤く点灯や点滅していない状態になることを確認します。
- ④屋内消火栓ポンプ室において屋内消火栓制御盤の停止ボタンを押しポンプを停止します。
- ⑤使用したホース等の機材をもとの使用可能状態に戻します。

ポイント

- ◆ 実際に放水した場合、ホースは乾燥してから収納しましょう。
- ◆ 受信機や消火栓ポンプ制御盤は機種により使用方法が異なります。説明書にて正しい操作方法を確認しましょう。
- ◆ ベルの鳴動のみを止める場合は受信機の音響停止ボタンで停止できます。実際の火災では、「消火が終了した」、「いたずら・誤報であった」等、安全が確認されるまでは止めてはいけません。
- ◆ 「音響停止」ボタンは受信機から発する音を、「地区音響一時停止」ボタンは建物内で鳴動しているベルの音を止めるボタンです。
- ◆ 受信機復旧後にスイッチ注意のランプが点灯している場合は異常があります。必ず確認しましょう。